

「茅野市スーパーシティ構想」に係る  
パブリックコメントにお寄せいただいたご意見と市の考え方

「茅野市スーパーシティ構想」に係るパブリックコメントを実施したところ、下記のとおり貴重なご意見をいただきました。  
いただいたご意見の概要と市の考え方をまとめましたので、公表いたします。

記

○パブリックコメントの実施状況

1 意見の募集期間	2 意見の提出者数と件数		3 意見の提出方法別人数				
	提出者	件数	メール	郵送	FAX	持参	計
令和3年3月15日（月） ～4月4日（日）	4名	12件	4名				4名

※同一意見提出者から複数項目にわたるご意見をいただいている場合があるため、意見提出者数と意見件数は一致しない場合があります。

#### 4 いただいたご意見とそれに対する市の考え方

No.	該当する箇所等	いただいた意見の概要	市の考え
1	全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2次総合戦略において若者に「選ばれるまち」を掲げているにも関わらず、高齢者をターゲットとした取組になっているのではないか。</li> <li>・案の策定にあたっては、若者からの意見も取り入れるべきではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本構想のメインコンセプトである健康は、高齢者だけではなく若者も含めたすべての市民に関わる問題であると認識しており、こうした幅広い市民のニーズを捉えて事業を展開したいと考えております。また、第2次総合戦略の進行管理に係る有識者より同様の指摘をいただいておりますが、この度、いただいたご意見等を踏まえ、健康以外にも、産業振興を切り口に若者の取り込みを図る新たな事業も構想に入れ込みました。</li> <li>・構想策定に当たっては、公立諏訪東京理科大学の学生や、20代、30代の方も含め、幅広い年代の市民からいただいた様々なご意見等を取り入れました。</li> </ul>
2	全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5Gの危険性について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現時点で明確に5Gの利用を前提としたサービスは検討しておりませんが、5Gが人体に及ぼす危険性については注視してまいります。</li> </ul>
3	P1 「ゆい」(結)の定義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ゆい」(結)の定義について記載されているが、本来の「ゆい」の定義であり、この資料に掲げる「ゆい」とは異なるように見受けられる。この資料での「ゆい」の定義を記載すべきと考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご指摘のとおり、提示した資料における「ゆい」の定義は本来の「ゆい」の定義であったため、国への提案においては「未来型ゆい」という新たな「ゆい」の概念を記載させていただきました。なお、国への提案では、「未来型ゆい」の定義を「先端技術を活用したニーズとサポートの最適マッチングによる、誰もが参加できる新たな相互扶助」としています。</li> </ul>
4	P3 茅野市スーパーシティ構想策定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の合意形成が不十分ではないか。事前に(事後にも継続的に)市民の意見を取り入れる仕組みも希薄である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の検討や、方向性の決定、国への提案内容の決定に当たっては、市民参加によるワークショップや、有識者による検討を重ねてまいりました。また、まちづくり懇談会や、パブリックコメントにより、市民の皆様からいただいたご意見等を可能な限り取り入れられるよう検討を進めてまいりました。</li> <li>・今後、市の考えを改めて市民の皆様にお示しするとともに、市民の皆様からいただいたご意見等を取り入れられる場の設置も含め、仕組みを検討させていただきます。</li> </ul>

5	P3 茅野市スーパーシティ構想策定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の財政負担、コストへの言及がない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在は国への提案の段階であるため、財政負担やコストを明示していませんが、今後、費用対効果を十分考慮した上で、事業推進に係る経費や負担者等を精査していきたいと考えています。</li> </ul>
6	P5 現状把握 P6 地域課題と取組テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「健康高原都市」を実現するための、住民課題や、移住者、交流市民、別荘市民等の課題についてより深く掘り下げる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パブリックコメント等でいただいたご意見等に基づき、国への提案に当たっては、人の健康、社会インフラの健康、データの健康の3つの”健康”による持続可能な地方都市の実現を目指すプロジェクトとして再構成しました。引き続き市民の皆様との議論を進め、課題の抽出とその深掘りを進めてまいります。</li> </ul>
7	P9 仕組みを実現するための要素事業とその概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や人々の問題・課題の解決に繋がるよう、市民から広く意見を聴取し新しいシステムを利用した問題解決の仕組みを追加できるようにしてほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の皆様が抱える問題や課題等を市が把握し、その解決につなげる体制や仕組みについて検討していきます。</li> </ul>
8	P9 仕組みを実現するための要素事業とその概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的地域資源の活用の追加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的地域資源の活用につきましては、「ストーリー豊かな旅を創造する観光資源最適化プログラム」として国の提案に記載しました。</li> </ul>
9	P10 データと先端的サービスに対する考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報の取り扱いの心配</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報の取り扱いについては、システムと人の目の両面からチェック安全性を担保してまいりたいと考えています。</li> <li>・システムにおいては、機密性、完全性、可用性の確実な担保に加え、データ提供許諾・プライバシー管理機能 UI を利用者へ提供することでデータ活用状況を可視化し、市民の皆様が抱えているセキュリティに対する不安感を払拭する仕組みの構築を目指します。</li> <li>・人の目として、有識者及び市民の皆様がシステムの稼働状況をセキュリティ面からチェックする機関を設け、データ連携基盤運用に係る PDCA を展開する仕組みの構築を目指します。</li> <li>・提供するサービスで得られるデータは、匿名加工情報として取り扱うものとし、データ提供者の利便性向上と、守りたい地域資源のために有効活用する仕組みとします。</li> <li>・提供した匿名加工情報を個人情報に復元するための「カギ」は、本人が管理し、その同意に基づき個人情報を利用することができる仕組みとします。</li> </ul>

10	P.10 データと先端的服务に対する考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大企業に茅野市の自治並びに住民主権が奪われることにならないか心配</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本構想は、自治や住民主権を充実させるための手段の一つとして考えており、次の4つの考え方を基本とし、構想実現を進めてまいります。</li> <li>①「市民」一人ひとりに合ったサービスを、個別に提供します。</li> <li>②便利になりますが、人の温かさ、アナログの良さも残します。</li> <li>③ムリやムダを省き、負担に感じていること、困りごとを解消します。</li> <li>④誰一人取り残しません。</li> </ul>
11	P.11 データと先端的服务に対する考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2030年の社会の姿のイメージの具体的な根拠や実現の方法、プロセスが不明。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2030年の社会の姿のイメージは、現時点で茅野市が描く理想のまちの姿のイメージとしてお示ししました。その具体的な根拠や実現方法、プロセス等につきましては、未だ検討段階であるため、今後、本構想に関わっていただく皆様を交えてさらなる検討を進めてまいります。</li> </ul>
12	P11 データと先端的服务に対する考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマートフォンが使えない人への対応が考慮されていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマートフォンが使えない人への対応については、市としても重要な課題と考えています。誰一人取り残さないまちを実現するため、地域における新たな人的サポート体制の構築に加え、例えばコミュニケーションロボットの活用など、新しい技術の活用も研究しながら、より良いサービス提供の方法について検討させていただきます。</li> </ul>